

物語をめぐりながら

ケアと私 について考える

連続ワークショップでは、物語や詩を介しながら、演劇の手法等を用い、「ケア」と「私」をとらえなおす機会を一緒につくっていきます。さまざまなかたちで物語や詩に触れることは、私たちに、いつもとは違う角度から物事や自分自身を見ることをうながします。あなたも、集まった人たちと一緒に身体や心を動かしつつ、考えてみませんか。

連続ワーク ショップ

物語をめぐりながら「ケア」と「私」について考える連続ワークショップ+対話の場では、講師やゲスト、参加者のみなさんと一緒に、物語や詩をめぐり、さまざまな方法を用いながら話したり考えたりする時間を持ちたいと思っています。

テーマは「ケア」と「私」。
あなたもぜひ、参加してみませんか。

山崎光 絵、(山崎佳代子・山崎光「戦争と子ども」(西田書店)より)

物語をめぐりながら

ケアと私 について考える

対話の場

対話の場では、ゲストのお話や映像、物語などを入り口にゆっくりと話したり、考えたり、試みたりする機会を一緒につくっていきます。ケアという言葉や営みに潜むものを探ることは、それぞれのケアやそこにいる自分自身を見つめなおし、新しいありかたをひらくきっかけになるかもしれません。

*対話の場は、毎回異なるゲストをお迎えし、実施します。

近年、私たちを取り巻く環境はますます厳しさを増しています。こどもも大人も毎日をなんとか過ごすことに精一杯で、時間的にも体力的にも余裕が持てないことも多いのではないのでしょうか。もしかししたら、なかなか他の人とゆっくり話す機会を持てず、いつの間にか自分の考えに囚われてしまっていることもあるかもしれません。もし、いつもとはちよつと違う世界に触れ、肩の力を抜き、視野を広げてみる時間が持てたなら、心や思考、人との関係を柔らかくするきっかけになるかもしれません。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人アートフル・アクション 協力：株式会社日比谷アメニス

詳しくはこちら↓



対話の場 参加費無料

※事前お申し込み制

こんな方にお勧め：「ケア」と「私」について、講師やほかの参加者のみなさんと一緒に話したり、考えたりしてみたい方。

定員

15名程度

会場

小金井アートスポット シャトー 2F
東京都小金井市本町6丁目5-3 シャトー小金井2階(JR武蔵小金井駅から徒歩5分)

日程

令和6(2024)年10月18日金・11月8日金・12月6日金
令和7(2025)年1月31日金・2月14日金
全日とも19時~20時半(20時半~21時 ふりかえりの時間)
*1回からご参加いただけます。

詳しくはこちら↓



連続ワークショップ(全8回) 参加費無料

※事前お申し込み制

こんな方にお勧め：「ケア」と「私」について、講師やほかの参加者のみなさんと一緒に話したり、考えたりしてみたい方。

定員

15名程度

会場

環境楽習館(10月5日、12日のみ)
東京都小金井市貫井南町3丁目2-16
(JR武蔵小金井駅より徒歩15分)
*以降は小金井市内の施設で実施予定です。

日程

令和6(2024)年10月5日土・10月12日土・
11月9日土・11月17日金・12月15日金
令和7(2025)年1月11日土・1月19日金・
2月8日土 全日とも10時~12時半
*なるべくワークショップ全回にご参加ください
(難しい場合はお申し込み時にご相談ください。)

内容

各回、物語や詩を1つ~2つ取り上げます。物語や詩を介しながら、演劇の手法等を用い、「ケア」と「私」をとらえなおす機会を一緒につくっていきます。

講師

花崎 暲(はなさき せつ)

★連続ワークショップでは、各回、物語や詩を1つ〜2つ取り上げます。

取り上げる物語や詩など（予定）

「ススペッチツツ ススペランラン」
アイヌの昔話

「誰が羊を食べたのか」
ウイグルの民話（りこうものエルセ）グリム

「ちいさなしんぱい」
アンネ・アルポー

「優しい地獄」
イリナ・グリゴレ

流れの例 「ちいさなしんぱい」の場合

① 今日の調子を言葉にしてみる

② 絵本を声に出して読む

③ それぞれの「ちいさなしんぱい」を書き出す
「ちいさなしんぱい」は何色？

④ それぞれの「ちいさなしんぱい」を身体で表してみる
「ちいさなしんぱい」は身体のどこに作用する？

⑤ 「ちいさなしんぱい」との付き合い方をシェアする

⑥ 振り返り

*予定は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

講師

花崎 攝（はなざき せつ）

シアター・プラクティショナー、野口体操講師。
ロンドン大学ゴールドスミス校芸術学修士。演劇を通していろいろな人が出会い、社会や自分のことについて、いつもとは違った仕方、共に考えるようなプロジェクトを多数行っている。主な仕事に、公舞で集まった人の経験を聞き合って演劇の形で表現し共有する「地域の物語」シリーズ（世田谷パブリックシアター）など。



*講師に加え、ゲストを招いて実施する回も予定しています。

物語をめぐりながら

ケアと私
について考える

参加費 無料
各プログラムとも定員15名

★連続ワークショップ（全8回）

会場 環境楽習館（10月5日、12日のみ）
東京都小金井市貫井南町3丁目2-16（JR武蔵小金井駅より徒歩15分）
*以降は小金井市内の施設で実施予定です。

日程 令和6（2024）年10月5日①・10月12日①・11月9日①・11月17日②・12月15日②
令和7（2025）年1月11日①・1月19日②・2月8日①
全日とも10時～12時半

※なるべくワークショップ全回にご参加ください。（難しい場合はお申し込み時にご相談ください。）

●対話の場

会場 小金井アートスポット シャトー 2F
東京都小金井市本町6丁目5-3 シャトー小金井2階（JR武蔵小金井駅から徒歩5分）

日程 / ゲスト

1回目 令和6（2024）年10月18日① / 船崎葉子
2回目 11月8日① / 山崎佳代子
3回目 12月6日① / 新澤克憲
4回目 令和7（2025）年1月31日① / リーナ
5回目 2月14日① / イリナ・グリゴレ
全日とも19時～20時半（20時半～21時 ふりかえりの時間）

※1回からご参加いただけます。
※20時半終了後、21時頃まで、会場にて、その日の気づきや感想などを分かち合う時間をもめます。参加は自由です。
※ゲストは、オンライン（Zoom等）で参加する場合があります。

お申し込み方法

下記のいずれかの方法でお申し込みください。

●ウェブフォーム
<https://artfullaction.net>



●FAX
下記を記載の上、042-316-7236
（NPO法人アートフル・アクション）までお送りください。

① お名前

② メールアドレス

③ 参加希望のプログラム（両方申し込みも歓迎！）

連続ワークショップ（基本全回参加）

申し込み期限：令和6（2024）年9月20日（金）中

お申し込み状況をふまえて、ご参加の可否につきましては、9月24日（火）頃に改めてご連絡させていただきます。
※全日参加が難しい方はご相談ください。

対話の場

参加希望日をご記載ください。（1回から参加可）

申し込み期限：各回の開催日午前10時まで

先着順。定員に達した場合、申し込み期限よりも早く締め切らせていただくことがあります。

④ 参加動機を簡単にお聞かせください。

⑤ 参加にあたって何か気になること、運営事務局や講師・ゲストに伝えておきたいことなどありましたらお書きください。（任意）

・プログラムは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

・お申込み時にお預かりした個人情報は、厳重に管理し、本事業の運営及びご案内のみに使用いたします。

・プログラム実施中に取材が入る場合や、主催団体のSNS等で発信及び広報物・記録・展示等で使用する写真・動画の撮影をする場合があります。撮影について何か気になることがある場合は、お申し込み時にお伝えください。

・プログラム実施中の写真・動画の撮影および録音はご遠慮ください。

・連続ワークショップにつきましては、実施中のけが等を考慮し、参加者のみなさまの保険加入手続きを主催者側でいたします。

・他の参加者への迷惑行為などがあった場合はご退出いただく場合があります。

お問い合わせ先

特定非営利活動法人

アートフル・アクション

小金井市本町6-5-3 シャトー小金井2F

mail@artfullaction.net

FAX: 042-316-7236

特定非営利活動法人アートフル・アクションについて

企画展、イベント、講演、ライブなど、さまざまなアート活動を行っている団体です。市民、自治体、学校、他のNPO、企業などと連携しながら、「地域におけるアート」の可能性を追求しています。本プログラムは、多摩地域を舞台に、地域の文化的、歴史的特性をふまえつつ今日的な社会課題等に向き合うため多様な人々が協働、連携するネットワークの基盤づくりを進める「多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting」の一環で実施しています。
<https://artfullaction.net/>
<https://cleavingartmeeting.com/>

*本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

東京アートポイント計画は、社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すためのさまざまな「アートポイント」をつくるために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、地域社会を担うNPOとともに展開している事業です。実験的なアートプロジェクトをととして、個人が豊かに生きていくための関係づくりや創造的な活動が生まれる仕組みづくりに取り組んでいます。

●対話の場では、
毎回異なるゲストをお迎えします。

ゲスト・内容

1回目 10/18 船崎葉子
ことぶき『てがみ』プロジェクトの映像をみて話してみる

2回目 11/8 山崎佳代子
遊びが命になるとき・詩歌ワークショップ

3回目 12/6 新澤克憲
『同じ月を見あげて ハーモニーで出会った人たち』
幻聴妄想かるたをしながら、ゆっくり話してみる

4回目 1/31 リーナ
写真を通して思いを語る

5回目 2/14 イリナ・グリゴレ
『優しい地獄』から一項目を選んで読んでみる

船崎 葉子（ふなざき ようこ）

「ことぶき『てがみ』プロジェクト」実行委員会代表。

ことぶき共同診療所（横浜市中区）ディケア担当者。「ことぶき『てがみ』プロジェクト」は、簡易宿泊所（通称「ドヤ」）が集まる街として知られる地域として知られる、中華街や元町に隣接する寿町にてディケアメンバーを中心に有志が集まり、自らの経験や記憶を「てがみ」の形で表現し、演劇的アプローチを行うプロジェクト。シアター・プラクティショナーの花崎攝氏をファシリテーターに迎え、2020年より実施している。

山崎 佳代子（やまさき かよこ）

1956年生。詩人、翻訳家。元ベオグラード大学文学部教授（日本学）。1995年より10年間、ベオグラード難民支援団体Zdravo da ste（ずどらぼ・だ・すて）で詩のワークショップを展開。また日本語教育のメソッド「詩歌（ことばうた）ワークショップ」を考案、ヨーロッパや日本の大学で実践した。詩集に『黙然をりて』（書肆山田、2022）、『海にいったらいい』（2020・思潮社）など。翻訳書にダニロ・キシュ『若き日の哀しみ』（東京創元社）など。エッセイ集に、『パンと野いちご』（2018・勁草書房、紫式部賞）、『ベオグラード日誌』（2014・書肆山田、読売文学賞受賞）、『そこから青い闇がささやき』（2022・ちくま文庫）など。近著に『ドナウ、小さな水の旅 ベオグラード発』（左右社、2022）がある。

新澤克憲（しんざわ かつり）

広島出身。2023年まで世田谷で、こころのトラブルを抱えた人たちの地域の居場所「ハーモニー」で施設の運営と利用者の人たちの支援に携わる。ハーモニーでは「幻聴妄想かるた」等の制作や地域との交流イベントなどの企画も行う。本年、道和書院より『同じ月を見あげてハーモニーで出会った人々』を刊行。昭和、平成、令和の時の流れの中で出会った忘れられない人たちとの日々を綴っている。現在はNPO法人やっここ理事長。

リーナ

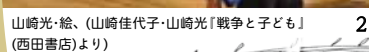
STAND Still 代表。STAND Still は、2019年、Picture This Japan（代表：フォトジャーナリスト大藪順子）が発案・実施したプロジェクトの参加者が主体となり設立した団体。様々なバックグラウンドや被害体験を持つ性暴力サバイバーにより構成。サバイバー自らが撮影することによって自己表現の可能性を広げ、写真の展示を通じた啓発と社会への提言により、参加者のエンパワメントと同時に他のサバイバーへ希望を届けることを目指し活動している。

イリナ・グリゴレ

文化人類学者。1984年ルーマニア生まれ。2006年に日本に留学し2007年に獅子舞の調査をはじめる。一時帰国後2009年に国費留学生として来日。弘前大学大学院修士課程修了後、東京大学大学院博士課程に入学。主な研究テーマは北東北の獅子舞、日本で生活して女性の身体とジェンダーに関する映像人類学的研究。現在はオートエスノグラフィ、日本における移民の研究を始めている。また2023年からバマアツで女性に関するフィールドワークを開始している。



2024 誰が羊を食べたのか 撮影：金川晋吾



山崎光・絵、（山崎佳代子・山崎光『戦争と子ども』（西田書店）より）



撮影：Jasminka Nadaskic（ヤズミンカ・ナダシキッチ）



幻聴妄想かるた ワークショップ



3 超・幻聴妄想かるた（2018）より



STAND Still 写真展設置



4 バマアツでのフィールドワークより



青森県でのフィールドワークより